

インターネットの活用 - Active X とは

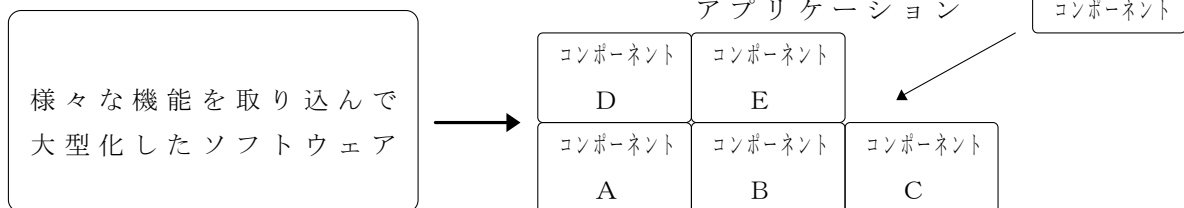
Active XはJavaに対抗してマイクロソフトが開発したコンポーネントソフト技術の名称です。Javaを開発したサンマイクロシステムズは、インターネットのような通信回線を使ってプログラムを配信する方法として、これまでのアプリケーションのようにすべての機能をふくんだプログラムではなく、機能ごとに細かくプログラムを分解し、それらをコンポーネントとして組み合わせることによってアプリケーションを構成しようとしていました。コンポーネントはそれぞれネットワークを移動し、他のコンポーネントソフトと連携処理することができます。この技術がインターネットやイントラネットの最適ソフト技術としてベンダーやユーザ企業がいっせいに採用に乗り出しブームとなりましたが、この動きに危機感を募らせたマイクロソフトが対抗して発表したものがActive Xです。

これまでのアプリケーション

コンポーネント型の

追加

アプリケーション



Active XはWindowsのアプリケーション間連携機能であるOLE (Object Linking and Embedding)をベースとした技術体系で、Windowsでの利用を前提として作られています (Macintoshでの利用も予定はされている)。Active XはOLEという既存の技術をベースにしているため、コンポーネントソフト間の連携処理機能はJavaよりはるかに整備されていますが、複合機能を1つのコンポーネントにまとめたこれまでのOCX (OLEカスタムコントロール)は連携処理するためのインターフェースが複雑で、プログラムサイズが大きくなるため、ネットワーク上を移動させるには適しませんでした。このインターフェースを整理するのがActive Xの技術的な核心部分で、これまでのOCXよりも小さなコンポーネントソフトを作成することができます。

しかし、マイクロソフトはJavaのライセンスを受け、Active XとJavaを組み合わせることを考えています。開発用言語としてのJavaに対しては、Windows上で開発がビジュアルに行うことができるVisual Javaがマイクロソフトから提供されます。確かにJavaは500ドルPCに対応できるという意味で、WINTEL帝国に対抗していますが、マイクロソフトは、現在のWindows環境をもとにインターネットに対応した環境を構築しようとしています。

イントラネットの導入が自然な形で各企業に取り入れようとしている現在、様々なコンポーネントソフトを作り、実績を積み上げ、イントラネットの構築に対応できる状況を構築することがたいせつと考えられる。

(情報誌トピックス)

○ 経 営 電 子 報 告 誌 6月6日号

特集 社内のソフトはこう管理する

→企業に大量に導入されたソフトウェアの管理は必要であるがなかなか手間のかかる物でもある。ソフトの管理ツールなどの紹介もあわせて解説。

特集 ネットワークエージェント

→ネットワークエージェントはネットワーク上でユーザの「代理人」として働くソフトモジュールで、アプリケーションやデータベースを必要に応じて組み合わせて自動実行する

○ 経 営 電 子 報 告 誌 6月17号

特集 デスクトップ会議、普及へのシナリオが見えてきた

→顔を見ながら放しするテレビ会議システム、画面を共通で使用するデータ会議システムの2つを組み合わせたデスクトップ会議システムが、消費者金融の無人契約機のヒットと機能は限定されるが1万円台の製品の登場によって急速な普及が始まろうとしている

特集 J a v aチップ登場、ポストR I S Cをねらう

→インターネットの世界でのJ a v aブームを追い風に最適なマイクロプロセッサJ a v aチップがサンマイクロシステムズで開発されている。三菱電機は組み込み向き向け32ビットマイクロプロセッサ「M32R/D」への移植を発表

論文 P e n t i u m P r oを8個搭載したサーバ

→三菱電機のa p r i c o t F T 8 0 0 0の開発についての記事
独自開発のL S Iによる8個のP e n t i u m P r oを搭載した部分、冷却方式、冗長多重電源などについて

ニュース J a v a技術者向け会議J a v a O n e開催

新A P I、J a v a O S、部品連携など、J a v aの発展方向が明らかに
→会議では、三菱がA M I T YにJ a v a O Sを搭載したものとM32R/D I J a v aを搭載した評価用ボードを出展して注目を浴びる

○ 経 営 電 子 報 告 誌 6月17日号

特集 パソコンの買い方、ウソとホント

納得できる店の選びのポイント教えます
→店の選択基準から電気街の歩き方まで

レポート W i n d o w s 9 5付属ソフト大全

→W i n d o w s 9 5に付属しているソフト(スターとメニューに登録されているものいないもの等いろいろある)の内容と使い方の一覧

レポート パソコン全面導入で薬待ち時間を大幅短縮

→サーバ7台とクライアント120台の総合システム

○ 経 営 電 子 報 告 誌 6月号

特集 ビジュアル開発の生産性向上

設計はシンプルに、検証をいとわず、部品を整備

→生産性向上が期待されたビジュアル開発だが、開発者側の認識不足、これまでの開発手法に対するしがらみなど開発ツールの進歩がユーザの生産性向上に結びついていない。シンプルな設計、プロトタイプによる検証、ソフトウェア部品の整備などが不可欠で、弱点の克服などの工夫が欠かせない。ツール固有のノウハウの収集にはネットワークの活用が有効。

オープンフロント 企業システムを J a v a で、96年後半にもツール、ミドルウェアの製品ラッシュ

→企業システムに J a v a を使うことは、イントラネットに直接結び付くものではないが、現状のクライアントサーバ環境にすぐにでも追い付く勢いがある。J a v a を意識させない開発環境、分散オブジェクト環境への対応など開発ツールに始まり、本格的ミドルウェアが登場する。企業は J a v a を採用することによって、企業内システムからイントラネットなどのネットワークシステムへの円滑な対応が可能となる。

特別付録の W i n d o w s 9 5 / N T 上の開発ツールの C D ¥ R O M に a p r i c o t O C X < T C P / I P > と M C C の V α が収録

○ 経 営 経 済 誌 6 月 号

特集 コンポーネントの時代へ

J a v a と A c t i v e X が引き起こすソフト革命

→新たに登場したコンポーネントソフトウェアがマルチメディアの世界を根底から変える。すべてのソフトが部品の集合体になり、ユーザは自在にアプリケーションやコンテンツを作れるようになる

プロダクトレビュー 個性化進むモバイル情報端末

→モバイル情報端末を幾つかに分けて状況をレポート。ペンタッチ情報端末として A M I T Y S P 説明あり

○ D O S / V m a g a z i n e 6 月 1 5 日 号

特集 デジタルピクチャー自由自在

→デジタルカメラのメカニズムから活用術まで

特別企画 イン트라ネットをどう読むか

→企業に取り入れ始めているイントラネットについて、その用語解説から構築の提案ケーススタディ、問題点の検討まで

○ L A N T I M E 7 月 号

特集 S O H O システムを動かす

→S O H O (Small Office and Home Office) システムとして、W i n d o w s N T を使ったサテライトオフィスの構築と L i n u x を使ったホームサイト日記を例にシステム構築について解説

○ P C W A V E 7 月 号

特集 百花繚乱「デジタルカメラ」

→手の届くところまで来たデジタルカメラの各機種ごとの解説